

2026 年夏期巡回講座レポート
巡回型ロボットプログラミング講座

5. ガールスカウト・既存団体編

目次

はじめに	2
第 1 章 このガールスカウト・既存団体編の目的と記録範囲	2
第 2 章 実施した講座と体験会	3
第 3 章 一般募集講座とは異なる条件	4
第 4 章 リーダー向け体験会と事前調整	5
第 5 章 6 月 28 日 ガールスカウト・第 55 団で確認したこと	7
第 6 章 8 月 2 日 ガールスカウト・第 57 団と第 84 団の合同講座	7
第 7 章 8 月 9 日 ガールスカウト・第 23 団で確認したこと	8
第 8 章 8 月 30 日 ガールスカウト・第 19 団の 2 名 1 組講座	9
第 9 章 9 月 6 日 ガールスカウト・チッタガールの 2 名 1 組講座	10
第 10 章 9 月 13 日 ガールスカウト・名古屋協議会の 3 名 1 組講座	12
第 11 章 複数人で 1 台を使用した時に見られたこと	13
第 12 章 年齢差・経験差と講座内容の変更	14
第 13 章 リーダー・保護者・講師の役割	15
第 14 章 大人数講座の工程を組み直す	16
第 15 章 アンケートと関係者の感想の扱い	17
第 16 章 今回確認できたこと	17
第 17 章 今後の講座設計に向けた私案	18
第 18 章 今後確認したいこと	19
第 19 章 まとめ	20
付記 最終版の記録範囲	21

はじめに

今夏巡回講座では、公民館等による一般募集講座のほか、ガールスカウト愛知県連盟（以下「ガールスカウト」と記載します）の団活動、合同活動、協議会によるロボティクス研修会を実施しました。

ガールスカウト向け講座では、参加者同士、参加者とリーダー、リーダー同士に、講座開始前からの関係があります。また、団の活動時間の中で講座を実施し、リーダーや保護者が会場設営、参加者の支援、缶バッジ制作等に関わる場合があります。この点で、初対面の参加者が集まる一般募集講座とは実施条件が異なります。

このガールスカウト・既存団体編では、ガールスカウト向け講座で講師が観察した行動、講座内容の変更、リーダー・保護者との役割分担、多人数で実施した際の運営を整理します。

ただし、このガールスカウト・既存団体編で扱う既存団体の事例は、主としてガールスカウトでの実践です。ここで確認したことを、他の既存団体や一般募集講座にも同じように当てはまるものとして扱うことはできません。

第1章 このガールスカウト・既存団体編の目的と記録範囲

1-1. このガールスカウト・既存団体編の目的

このガールスカウト・既存団体編の目的は、ガールスカウト向け講座を一般募集講座と単純に比較して評価することではありません。

団体活動の中でプログラミング講座を実施した時に、どのような行動が観察されたか、どのような運営上の変更が必要になったか、何がまだ分からないかを整理することを目的とします。

1-2. 使用した記録

このガールスカウト・既存団体編は、2026年6月28日から9月13日までに実施したガールスカウト向け講座およびリーダー向け体験会について、次の記録を基に作成しました。

- 最終参加状況表
- 共通アンケートおよび施設独自アンケート
- 講師観察メモ
- 団委員長、リーダー、保護者から講師へ伝えられた感想

アンケートに記載された本人の回答、講師が見た行動、団関係者から伝えられた感想、講師の所感や仮説は、同じ事実として扱わず、できる限り分けて記載します。

1-3. このガールスカウト・既存団体編で扱わないこと

このガールスカウト・既存団体編では、各団や参加者を評価・順位づけしません。また、団ごとの違いを固定的な団体特性として説明しません。

進行の違いについては、参加者の年齢、人数、機材 1 台当たりの人数、会場の広さ、講座時間、リーダー・保護者の関わり方等の条件に分けて考えます。

第 2 章 実施した講座と体験会

2-1. 実施記録

今夏に記録したガールスカウト向けの主な実践は、次のとおりです。以下、自動車型ロボットを「ロボット」と表記します。

- 6 月 28 日 ガールスカウト第 55 団
Scratch 講座、ロボットプログラミング講座
- 7 月 4 日 ガールスカウト・チッタガール
リーダー向け体験会
- 8 月 2 日 ガールスカウト第 57 団・第 84 団合同
Scratch 講座、ロボットプログラミング講座
- 8 月 8 日 ガールスカウト・名古屋協議会
リーダー向け体験会
- 8 月 9 日 ガールスカウト第 23 団
Scratch 講座、ロボットプログラミング講座
- 8 月 30 日 ガールスカウト第 19 団

- Scratch 講座、ロボットプログラミング講座
- 9 月 6 日 ガールスカウト・チッタガール
Scratch 講座、ロボットプログラミング講座
- 9 月 13 日 ガールスカウト・名古屋協議会
Scratch 講座、ロボットプログラミング講座

注：チッタガールは第 16 団だけを指す名称ではなく、また、名古屋協議会は第 79 団だけを指す名称ではありません。それぞれ友団を含む活動単位の名称です。本編では、単独団の表記との整合を図るため、接頭語として「ガールスカウト・」を付け、7 月 4 日のリーダー向け体験会と 9 月 6 日の講座を「ガールスカウト・チッタガール」、8 月 8 日のリーダー向け体験会と 9 月 13 日の講座を「ガールスカウト・名古屋協議会」と記載します。

2-2. 講座の基本構成

講座は、Scratch による画面上のプログラミングと、ロボットを動かすプログラミングを中心に構成しました。

講座によっては、参加者を撮影した写真を使用する缶バッジ制作も組み合わせました。

実際の内容は毎回同一ではありませんでした。

参加者の年齢構成、マウス操作の状況、進行時間、会場の広さ等を見ながら、予定していた内容の一部を割愛しました。

2-3. 参加人数の数え方

このガールスカウト・既存団体編では、スカウト、入団希望者、リーダー、保護者を分けて記載します。講座の主な参加者数と、運営を支えた大人の人数を混同しないためです。

第 3 章 一般募集講座とは異なる条件

3-1. 参加者同士に既存の関係がある

ガールスカウト向け講座では、参加者同士が講座当日に初めて会ったとは限りません。団活動を通じて、講座開始前から関係があります。

そのため、講座中に見られた操作交代、相談、譲り合い、進み方が遅い参加者を待つ行動について、機材の共同利用だけが理由であるとは判断できません。

普段からの関係や、団活動での経験が影響した可能性もありますが、講師は日常の活動を継続的に観察していないため、どの程度影響したかは分かりません。

3-2. 募集人数とは異なる確認事項がある

一般募集講座では、募集定員に対する応募人数や参加人数が、参加状況を考える情報になります。

一方、既存団体では、団体活動の中に講座をどのように組み込み、参加者の年齢差にどう対応し、リーダーや保護者とどのように役割を分けるかが、主な確認事項になります。

このため、一般募集講座と既存団体の講座を、定員充足率だけで比較することは適切ではありません。

3-3. 大人の関わり方が講座ごとに異なる

リーダーや保護者は、プログラミングの内容を直接教える場合だけでなく、機材操作の補助、安全確認、写真の切り抜き、缶バッジのプレス、会場設営・撤去等に関わりました。

大人が何人いたかだけでは、講座への関わり方は分かりません。誰がどの作業を担当したかを併せて記録する必要があります。

第4章 リーダー向け体験会と事前調整

4-1. ガールスカウト・チッタガールのリーダー向け体験会

7月4日の体験会には、リーダー7名が参加しました。実際の研修会で使用する会場も確認しました。

体験中には、リーダー同士が互いに教える場面がありました。Scratch で複数の部品を組み合わせる操作や、ロボットを S 字に走らせるプログラムでは、すぐには操作や考え方を結び付けられない場面もありました。

この体験会により、スカウトが参加する本番で、リーダーがどの部分を支援できるか、どの程度の時間が必要になりそうかを事前に確認しました。

4-2. ガールスカウト・名古屋協議会のリーダー向け体験会

8 月 8 日の体験会には、リーダー 7 名が参加しました。本番とは別の会場で実施し、通常講座の内容を一部割愛しました。

マウス操作に時間を要するリーダーがおり、別のリーダーが操作を補う場面がありました。また、本番では参加者 3 名が 1 台のパソコンとロボットを使用する予定であることを確認しました。

体験会を実施しても、本番の参加人数、年齢構成、会場が異なれば、同じ進行になるとは限りません。体験会は本番を完全に再現するものではなく、教材、操作、支援方法を事前に共有する機会として位置づけます。

4-3. 事前に確認しておきたい事項

今回の体験会と本番を通じて、次の事項は事前に確認しておく必要があると考えました。

- 参加予定人数と年齢構成
- パソコンとロボットの台数
- 1 台を使用する人数
- 講座中にリーダーが担当する範囲
- 缶バッジ制作を講座時間内に行うか、終了後に分けるか
- 写真撮影、印刷、切り抜き、プレスの担当
- アンケート用紙の回収と記録方法
- ロボットを走らせる場所と身体実験を行う場所

これらは今回の実践を基にした確認項目です。
すべての団体で同じ役割分担が必要とは限りません。

第5章 6月28日 ガールスカウト・第55団で確認したこと

5-1. 初回のガールスカウト向け実践

6月28日は、Scratch とロボットプログラミングを実施しました。Scratch でネコが鳴いた時、ロボットが動いた時、S字走行ができた時に、声や表情の変化が見られました。

一方、会場は参加人数に対して狭く、ロボットを走らせる場所に制約がありました。また、S字走行は、年齢にかかわらず、考え方とプログラムを結び付けにくい参加者がいました。

5-2. 缶バッジ制作に必要な時間

この回では、10個の缶バッジ制作に、講師が想定していた以上の時間が必要でした。

この経験から、プログラミングの支援と缶バッジ制作を講師だけで同時に進めるのではなく、リーダーとの役割分担を事前に決める必要があると講師は考えました。

この時点では講師の判断であり、次の講座で役割分担を変更し、再度確認することとしました。

第6章 8月2日 ガールスカウト・第57団と第84団の合同講座

6-1. 参加者と機材

8月2日は、スカウト8名、入団希望者1名、リーダー6名、保護者1名が参加しました。講師がノートパソコン9台を使用して実施した最初の講座でした。

6-2. 内容の変更

参加者の中に年少者が複数いたため、進み方を見ながら、ロボットプログラミングの予定内容を一部割愛しました。

ロボットが動いた時や S 字に走った時には反応が見られましたが、身体を使って S 字の動きを確認した後でも、ロボットを思うように走らせられない場合があります。

6-3. リーダーとの分業

会場の設営と撤去、缶バッジ制作では、リーダーが作業を担当しました。講師が依頼する作業を具体的に伝えたところ、分担した作業は滞りなく進みました。

講師観察メモには、日頃のガールスカウト活動が作業の進み方に影響した可能性が記されています。ただし、その関係を確認したものではないため、このガールスカウト・既存団体編では、具体的な依頼に対して作業が進んだという観察事実までを記録します。

第 7 章 8 月 9 日 ガールスカウト・第 23 団で確認したこと

7-1. 参加者

8 月 9 日は、スカウト 6 名、入団希望者 2 名、リーダー 6 名、保護者 3 名が参加しました。

7-2. 当日の変更

参加者の年齢とマウス操作の状況を見て、ロボットプログラミングで予定していた LED 点灯と音楽を鳴らす内容を割愛しました。

講師は、画面操作の状況を見て、当日に扱う内容を減らしました。これは、参加者が予定内容を理解できないと判断したものではなく、限られた時間内でロボットを動かす体験まで進むための変更です。

7-3. Scratch からロボットへの切り替え

Scratch でネコのデザインを変更した参加者の中に、後半のロボットプログラミングへ移るために Scratch を終了することを嫌がる参加者がいました。

自分で変更した作品を続けたい気持ちや、作成したものへの愛着が関係した可能性があります、本人に理由を確認したものではありません。

第8章 8月30日 ガールスカウト・第19団の2名1組講座

8-1. 参加者とチーム構成

8月30日は、スカウト15名、リーダー7名が参加しました。年少者と年長者を組み合わせた2名1組を中心に講座を実施しました。

8-2. 進行状況に応じた内容変更

年少の参加者が複数おり、画面操作に時間を要する場面がありました。そのため、ScratchではIF命令（もし～だったら）を割愛しました。ロボットプログラミングでは、LEDの白色点灯とS字走行を中心とした内容へ変更しました。

講師メモでは、事前に想定した内容に対して、Scratchは約75%、ロボットプログラミングは約40%を実施したと記録しています。この割合は、講師による概算です。

実施割合だけを見て、講座の成否を判断することはできません。

当日、参加者の操作状況を確認し、内容を減らして進行した事実として記録します。

8-3. 待つ行動

講師からは、進み方が遅い参加者がいても、早く進んだ参加者が待つ場面が見られました。

講師観察メモには、「早い子が待つのが当たり前という空気があった」という所感が残されています。

ただし、待つ行動が年少者と年長者の組み合わせによって生じたのか、団の日常的な関係によるものかは分かりません。

8-4. 団関係者から伝えられた感想

団委員長から講師へ送られたメッセージには、参加者が途中で飽きたり諦めたりせずに取り組んでいたこと、帰宅後にも講座の話をするのではないかと感じたこと等が記されていました。

これは団委員長が見た様子と感想です。参加者全員の内面や、帰宅後の行動を確認したものではありません。

第9章 9月6日 ガールスカウト・チッタガールの2名1組講座

9-1. 参加者とチーム構成

9月6日は、スカウト12名、リーダー6名、保護者2名が参加しました。スカウトは2名1組で、1台のパソコンとロボットを使用しました。

9-2. 操作交代と相談

各組では、パソコン操作を交代する場面や、2人で話し合う場面が見られました。S字走行では、上手く走行できた組に対して、別の参加者が「どうやったの」と尋ねる場面がありました。

講師が操作交代や教え合いを細かく指示したわけではありません。

ただし、参加者同士には事前から関係があるため、2名で1台を使用したことだけが、これらの行動の理由とは判断できません。

9-3. Scratch を続けたい参加者

Scratch 経験者が半数を超えており、進行は講師の想定より速くなりました。ネコのコスチュームや背景の変更に時間を使う参加者もいました。

ロボットプログラミングへ移るため Scratch を終了する際に、終了したくない反応を示した組がありました。第23団でも同様の場面がありましたが、理由を本人に確認していないため、同じ理由による行動だったとは断定できません。

9-4. 全体説明中の先行操作

全体説明中に先の操作へ進み、プログラム開発用の **MakeCode** の画面を元の状態へ戻せなくなった参加者がいました。この時は、講師が **MakeCode** を再起動して対応しました。

講師観察メモには、講座冒頭で「全体説明中は先回りして操作しないように」と伝える案が記録されています。ただし、この方法を別の講座で試し、その後の様子を確認したものではありません。

自由に試す時間と全体説明を聞く時間を分ける方法も考えられますが、今後の講座で確認が必要です。

9-5. 機材不具合の可能性

数値を変更しても S 字走行が上手くできなかった参加者がいました。講座後にアンケートを確認したところ、使用したロボットのモーターに不具合があった可能性が浮かびました。

講座中に機材を交換して再確認したものではないため、不具合が原因だったとは断定できません。

この事例から、ロボットが思うように動かない時は、プログラムや操作だけでなく、機材の状態も確認対象に含める必要があると考えました。

9-6. リーダーと保護者の関わり

リーダーは、プログラミングの内容へ継続的に介入するのではなく、機器操作や安全面を中心に支援しました。

缶バッジ制作では、保護者が写真の切り抜きやプレスを担当しました。講師は最初の作業を一緒に行った後、プログラミング講座の支援へ戻りました。

この分担により講師がプログラミングの進行に関わる時間を確保できましたが、同じ分担が他の会場でも成立するとは限りません。

第 10 章 9 月 13 日 ガールスカウト・名古屋協議会の 3 名 1 組講座

10-1. 参加者とチーム構成

9 月 13 日は、スカウト 24 名、入団希望者 1 名、リーダー 15 名、保護者 12 名が参加しました。スカウトは 3 名 1 組で、1 台のパソコンとロボットを使用しました。

10-2. 操作を譲る場面

3 名の中で、誰が操作するかを譲り合う場面がありました。

譲り合いによって全員が操作できたか、操作時間に偏りがなかったかまでは、講師は継続して確認できませんでした。講師が操作者や交代時期を指定する方がよいのか、参加者に任せる方がよいのかについても、結論は出ていません。

10-3. 予定内容の割愛

年少の参加者が多く、マウス操作に時間を要する場面がありました。ロボットプログラミングでは、アイコン表示と直進走行を割愛し、ヘッドランプの点灯と S 字走行を実施しました。

S 字走行の身体実験は、講師とリーダーで行いました。スカウト自身による身体実験は、会場の広さと進行時間を考慮して割愛しました。

この変更は、年齢だけを理由にしたものではありません。マウス操作の状況、会場の広さ、進行時間が重なった中での当日の判断です。

10-4. 講師へ伝えられなかった停止

MakeCode の画面が消えた時に、講師へ伝えないまま作業が止まっていた組がありました。

講師メモには、講座冒頭で「困ったことがあれば知らせてください」と伝える案が記録されています。大人数講座では講師が全組の画面を同時に確認できないため、参加者やリーダーから講師へ状態を伝える方法を、事前に共有する必要があると考えられます。

10-5. 缶バッジ制作を別工程にする

缶バッジ用の写真撮影と制作は、研修会終了後、講座会場とは別の控室で一括して実施しました。リーダー、保護者、参加者が、写真の切り抜きやプレスを分担しました。

プログラミング講座と缶バッジ制作を同時に進めなかったため、講師は講座中、プログラミングの進行に関わることができました。

少人数講座で行った工程を人数分だけ拡大するのではなく、参加規模に応じて工程を分ける方法を試した事例です。

第 11 章 複数人で 1 台を使用した時に見られたこと

11-1. 観察した行動

複数人で 1 台の機材を使用した講座では、次の行動が見られました。

- パソコン操作を交代する
- 2 人で相談する
- 上手くできた組に方法を尋ねる
- 次の操作者を譲り合う
- 進み方が遅い参加者を待つ

これらは講座中に観察した行動です。

11-2. 確認できていないこと

次の点は、今回の観察だけでは分かりません。

- 全員が同程度の時間、実際に操作したか
- 操作していない時間に、画面やロボットの動きをどのように見ていたか
- 相談や譲り合いが、共同利用によって生じたのか
- 団活動での既存の関係が、どの程度影響したか
- 初対面の参加者同士でも、同様の行動が見られるか
- 2 名 1 組と 3 名 1 組のどちらが適切か

11-3. 今後の記録方法

今後は、チームごとに、誰がいつ操作したか、交代のきっかけは何だったか、操作していない参加者がどのように関わったかを記録する必要があります。

ただし、記録を増やすことで講座中の支援が不足しないよう、リーダーや記録担当者との役割分担も必要になります。

第 12 章 年齢差・経験差と講座内容の変更

12-1. 年齢だけでは説明できない

年少の参加者が多い講座では、マウス操作に時間を要する場面がありました。一方、同じ年齢であっても操作状況は同じではなく、Scratch 経験の有無によっても進み方は異なりました。

そのため、「低年齢だからできない」「経験者だから説明は不要」とは扱いません。当日の操作状況を見ながら進行を変更します。

12-2. 内容を減らした講座

今夏巡回講座のガールスカウト向け講座では、次のような変更を行いました。

- ロボットの LED 点灯や音楽を割愛する
- Scratch の IF 命令を割愛する
- ロボットのアイコン表示と直進走行を割愛する
- S 字走行の身体実験を講師とリーダーだけで行う
- LED の白色点灯と S 字走行を中心にする

変更した内容は講座ごとに異なります。変更後の内容がすべての年齢層に適切だったと確認できたわけではありません。

12-3. 複数の進行案を準備する

講座開始前に、標準案、内容を減らした案、時間に余裕がある場合の追加案を準備しておく方法が考えられます。

ただし、当日の雰囲気や進み方は、講座が始まるまで分からない部分があります。事前の年齢情報だけで内容を固定せず、観察後に変更できる余地を残します。

第 13 章 リーダー・保護者・講師の役割

13-1. 講師が担当したこと

講師は、全体説明、教材の進行、プログラムや機材の不具合への対応、時間配分の判断を担当しました。

13-2. リーダーが担当したこと

リーダーは、会場設営・撤去、参加者への声かけ、機器操作や安全面の支援、缶バッジ制作等を担当しました。担当範囲は講座ごとに異なりました。

13-3. 保護者が担当したこと

保護者は、講座の見学、参加者の操作支援、写真の切り抜き、缶バッジのプレス等に関わりました。9 月 13 日は、研修会中は主に見学し、終了後の缶バッジ制作を担当した保護者がいました。

13-4. 役割を固定しすぎない

講師、リーダー、保護者の役割は、毎回同じである必要はありません。

参加人数が少ない場合と多い場合、保護者が同席する場合としない場合、缶バッジ制作を同時に行う場合と終了後に行う場合では、必要な分担が異なります。

一方、当日に初めて役割を決めると、講師の説明中に作業確認が必要になることがあります。主要な担当は事前に決め、当日の状況に応じて変更できる形が考えられます。

第 14 章 大人数講座の工程を組み直す

14-1. 機材数だけを増やしても同じ運営にはならない

参加人数が増えると、必要なパソコンとロボットの台数だけでなく、画面トラブルの発見、操作交代、写真撮影、アンケート回収、缶バッジ制作等の作業量も増えます。

少人数講座の進行をそのまま人数分だけ拡大すると、講師がプログラミングの支援と制作作業を同時に担当することが難しくなります。

14-2. 9 月 13 日に変更した工程

9 月 13 日は、次のように工程を分けました。

- 3 名で 1 台のパソコンとロボットを使用する
- プログラミング講座中は、講師が講座進行を中心に担当する
- 缶バッジ用の撮影と制作を講座終了後に行う
- 缶バッジ制作は別室で行う
- 写真の切り抜きとプレスをリーダー、保護者、参加者が分担する

この変更により、講座と制作の工程を分離しました。今後も同じ方法を採用するかは、会場、人数、終了後に使用できる時間、持ち帰り作業の可否等を確認して判断します。

14-3. アンケートの扱い

大人数講座では、アンケート用紙の確認、撮影、入力にも時間が必要です。講座当日にすべての記録作業を終えるのか、用紙を一時的に預かって後日入力するのかを、事前に決めておく必要があります。

個人情報を含む可能性があるため、保管方法、返却方法、画像データの扱いも併せて確認します。

第 15 章 アンケートと関係者の感想の扱い

15-1. アンケートで分かること

アンケートは、参加者本人が回答時点で選んだ項目や、自由記述に書いた内容を確認する資料です。

ただし、選択肢への回答だけで、プログラムをどの程度理解したか、チーム内でどのように考えたか、今後も継続して学ぶかまでは分かりません。

15-2. 自由記述と観察記録を分ける

自由記述に書かれた内容は、参加者本人の言葉として扱います。講師が観察した行動とは区別します。

また、講師が「楽しそうだった」「充実した様子だった」と感じた場合も、参加者本人がそう回答したことには置き換えません。表情や発言など、観察できた内容を記載した上で、講師の所感であることを明らかにします。

15-3. リーダーや保護者の感想

リーダーや保護者からは、参加者が講座に取り組む様子や、子どもの操作の速さに驚いたこと、今後もプログラミングを体験させたいこと等が講師へ伝えられました。

これらは関係者の感想として記録します。参加者本人の理解度や、すべての参加者に共通する評価としては扱いません。

第 16 章 今回確認できたこと

16-1. 実施事実として確認できたこと

今夏巡回講座のガールスカウト向け講座では、次のことを確認しました。

- 2 名または 3 名で、1 台のパソコンとロボットを使用した

- 操作交代、相談、方法を尋ねる行動、譲り合い、待つ行動が見られた
- 年齢構成、操作状況、会場、進行時間に応じて、予定内容を割愛した
- リーダーと保護者が、機器操作、安全確認、会場設営、缶バッジ制作等を支援した
- 大人数講座では、プログラミングと缶バッジ制作の工程を分けた
- 画面が消えた時に講師へ伝えないまま作業が止まった組があった
- 機材不具合の可能性を、講座中に確認できなかった事例があった

16-2. 今回だけでは分からないこと

次のことは、今回の記録だけでは分かりません。

- 相談や譲り合いが、団活動の関係によるものか、共同利用によるものか
- 初対面の参加者同士でも、同様の行動が見られるか
- 2名1組と3名1組のどちらが、参加者にとって適切か
- 講師が操作交代を指定する方がよい条件は何か
- 操作していない参加者が、どのように考え、何を見ていたか
- 予定内容を減らしたことが、参加者本人にどのように受け止められたか
- リーダー向け体験会が、本番の支援や進行にどの程度影響したか
- 今回の方法が、他の既存団体でも成立するか

第 17 章 今後の講座設計に向けた私案

17-1. 三つの進行案を準備する

標準の進行案に加え、操作に時間を要する場合の短縮案と、時間に余裕がある場合の追加案を準備する方法が考えられます。

17-2. チーム内の操作を確認する

複数人で 1 台を使用する場合は、講師が操作順を指定する方法と、参加者に任せる方法の両方を試し、操作時間や相談の様子を記録することが考えられます。

17-3. 困った時の伝え方を共有する

大人数講座では、画面が消えた、ロボットが動かない、操作が分からない等の状態を、参加者またはリーダーから講師へ伝える方法を、講座冒頭に共有することが考えられます。

17-4. 機材確認の手順を加える

ロボットが思うように動かない時は、プログラムの確認に加え、別のロボットで同じプログラムを動かす、左右のモーターの状態を確認する等の手順を用意することが考えられます。

17-5. 制作工程を分離する

参加人数が多い場合は、缶バッジ制作を講座終了後または別日に行う、別室で行う、制作担当者を決める等の方法が考えられます。

以上は、今夏の実践を基にした講師の私案です。今後の講座で実施し、その時の状況を改めて観察する必要があります。

第 18 章 今後確認したいこと

今後、既存団体向け講座を実施する場合は、次の点を継続して確認します。

- リーダー向け体験会を実施した場合と、実施しない場合の違い
- 年少者と年長者を組み合わせた時の操作交代と相談
- 2名1組と3名1組における、各参加者の操作時間
- 講師が操作交代を指定した場合と、参加者に任せた場合の違い
- 参加者が困った状態を講師へ伝える方法
- 講座と缶バッジ制作を分けた時の運営負担
- リーダー、保護者、講師の役割分担
- 参加者本人が、複数人での活動をどのように受け止めたか
- ガールスカウト以外の既存団体でも、同じ運営が成立するか

分からないことを、今回の講座だけで結論づけず、条件を記録しながら確認を続けます。

第 19 章 まとめ

ガールスカウト向け講座では、参加者同士やリーダーとの間に、講座開始前からの関係がありました。その中で、2 名または 3 名で機材を共同使用し、操作交代、相談、方法を尋ねる行動、譲り合い、待つ行動が見られました。

一方、これらの行動が既存の関係によって生じたのか、複数人で機材を使用したことによって生じたのかは分かりません。一般募集講座や、他の既存団体でも同じ行動が見られるとは限りません。

講座運営では、参加者の年齢構成、マウス操作の状況、会場の広さ、進行時間に応じて、予定内容を変更しました。また、リーダーと保護者が、機材操作、安全確認、会場設営、缶バッジ制作等を担当しました。

9 月 13 日の多人数講座では、プログラミングと缶バッジ制作を別工程にしました。少人数講座の方法をそのまま拡大するのではなく、参加規模に応じて、チーム構成、支援方法、制作工程、アンケート処理を組み直す必要があると考えられます。

このガールスカウト・既存団体編では、確認できた事実と、講師の所感・私案、まだ分からないことを分けて記載しました。

今後も、講座ごとの条件と具体的な行動を記録し、変更後の講座で改めて確認を続けます。

付記 最終版の記録範囲

このガールスカウト・既存団体編は、2026年6月28日から9月13日までに実施したガールスカウト向け講座6回と、リーダー向け体験会2回について、最終参加状況、アンケート結果、講師観察メモ、団関係者から講師へ伝えられた感想を基に作成しました。

このガールスカウト・既存団体編の題名には「既存団体」を含めていますが、今回記録した実践は主としてガールスカウトを対象としたものです。そのため、本文で確認した行動や運営方法を、他の既存団体や一般募集講座にも同じように当てはまるものとして扱うことはできません。

本文では、講座中に観察された行動、参加者や団関係者から伝えられた内容、講師の解釈・所感、今後の講座設計に向けた私案を、可能な範囲で区別して記載しました。

ただし、講師がすべての参加者やチームの行動を継続して観察できたわけではありません。また、観察されなかったことが、講座中に起きていなかったことを意味するものではありません。

アンケート全体の集計と分析についてはアンケート分析編で、他の会場を含む講座全体の分析については全体分析編で、講師観察メモを基にした実践上の検討については現場観察・実践編で扱っています。

——— 以上 ———

改版履歴

ver.1	2026/09/22	初版
-------	------------	----

作成者・連絡先

作成者		こどものプログラミング教室 (有限会社エムバイビー)
	講師	廣瀬 清司 (ひろせ せいじ)
連絡先	メール	hirose@mvp.jp
ホームページ	URL	https://www.mvb.jp/

※ご質問などの連絡はメールにてお願いします。